

九州支部 2015 年度秋期活動報告

九州支部長 藤元嘉安（宮崎大学）

九州支部では、今年度、10月5、6日の第22回日本木材学会九州支部大会（大分）（報告済み）のあと、以下の2件のシンポジウムおよび見学会を共催として開催しておりますのでご報告いたします。

日本木材学会 組織と材質研究会秋季シンポジウム 2015

「スギの材質 —利用と育種の現状とこれから—」

10月23日に九州大学国際ホールにおいて、日本木材学会組織と材質研究会が主催した秋期シンポジウム「スギの材質 —利用と育種の現状とこれから—」を共催いたしました。以下の講師5名の講演の後、総合討論が行われました。

1. 「スギ材利用における九州産スギ在来品種の材質」、大分県農林水産研究指導センター・津島俊治氏
 2. 「スギの材質を知り利用に活かす—高強度梁仕口 Tajima(但馬) TAPOS(テイポ ス)®の開発—」、兵庫県立農林水産技術総合センター・永井智氏
 3. 「スギの材質変動と植物ホルモンの役割」、宮崎大学農学部・雉子谷佳男氏
 4. 「分子育種に向けた材質形質選抜マーカー開発の試み」、森林総合研究所林木育種センター・三嶋賢太郎氏
 5. 「モデル植物の情報から樹木の木部細胞の分化メカニズムを探る」、森林総合研究所森林バイオ研究センター・高田直樹氏
- 詳しくは、組織と材質研究会の報告をご覧ください。

「里山資源（未利用広葉樹、竹等）の地域内高付加価値循環モデルの構築」成果報告および現地見学会

10月29日に中津市の大分県漁業協同組合中津支店において、「里山資源（未利用広葉樹、竹等）の地域内高付加価値循環モデルの構築」成果報告および現地見学会が開催されました。この会は、九州大学大学院農学研究院木質材料工学研究室の主催であり、日本木材学会九州支部とともに、大分県漁業協同組合中津市店、（有）新貝商店および日本木材加工技術協会九州支部が共催しています。

中津市では、ノリ養殖に続く新たな養殖業として、平成24年度から大分県漁業協同組合中津支店が主体となり、中津干潟での牡蠣養殖に取り組んでいます。さらに、市全体の地域振興の観点から、中津市域を縦貫する山国川流域の里山との協働を目的に、平成25年度補正ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金を受け、牡蠣養殖に必要な杭材を里山資源から利用する取り組みが、平成26年度から標記事業として進められてきました。

この会では、今年8月に本事業が終了したことを受けて、九州大学大学院の野田龍氏と藤本登留氏により、本調査事業の紹介および成果報告が行われました。参加者は8名でした。その後、現地見学会ならびに海側と山側の関係者らによる意見交換が行われ、地域振興の一助となる機会となりました。